



数かずの新機能を搭載し、 10パーセント超えのパワーアップ NEW ビーストマスター 9000

BEAST MASTER 9000

●ビーストマスターの心臓部・高耐久のブラシレスモーター「GIGA-MAX MOTOR」の制御を最適化し、現行モデル比で10パーセント超えのパワーアップを実現。シマノ巻き上げ力133キロのハイパワーを発揮し、簡易魚探「NEW 海底・魚群水深表示」や「言語切替」などシマノ独自の新機能を搭載。

spec =ギア比3.1、最大ドラッグ力25kg、自重1485g、糸巻き量(タナトル) 6号1100m・8号900m・10号650m・12号550m、ハンドル1回転あたりの最大巻上長88cm、シマノ巻上力133kg、実用巻上持久力20kg、最大巻上速度毎分165m、実用巻上速度1kg 負荷時毎分148m・3kg 負荷時毎分143m、価格16万3000円



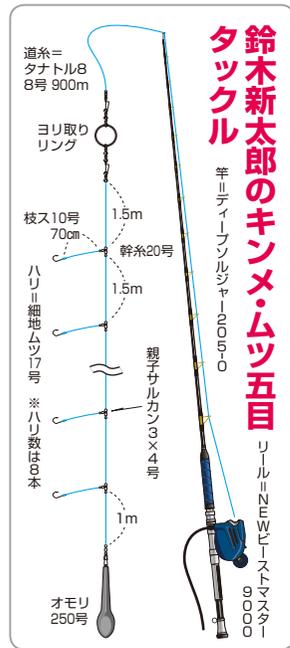
◀「オリジナルのアルミハンドルノブは握りやすく、回転が滑らかなので巻き心地がいいですよ」

簡易魚探「NEW 海底・魚群水深表示」



●リール単体で機能する簡易魚探機能。リールが見丸の親機の無線通信をキャッチし、液晶画面に水深、海底形状、魚群水深が表示される(魚群水深機能はアキュフィッシュ対応の親機搭載船に限る)。

▼強度の高いアルミ冷間鍛造クラッチレバーを装備



鈴木新太郎のキンメ・ムツ五目 タックル

リールはNEW ビーストマスター9000
※ハリス数は8本
水深400〜650メートルと最も深場を狙うアコウダイや、北茨城で人気のアブラボウズにも使えますし、夏〜秋は相模湾のキハダで活躍してくれます。

そして魚群を感じるとアラームが鳴って、魚群水深表示に切り替わると魚のタナ(魚群水深)が表示されるので、素早く仕掛けをヒットレンジに合わせられます。

ルミ冷間鍛造クラッチレバー、液晶の表示言語を日本語、英語、韓国語、中国語に切り替えられる新機能を搭載して、価格は据え置きなのでお買い得です。

このリールに巻く道糸は何号がおすすめ?
PE8号がおすすめです。カタログの糸巻き量は900メートルですが、きつめに巻けば1000メートル入ります。三浦半島や相模湾のキンメ・ムツ五目や根魚五目船が狙う沖ノ瀬や、東伊豆の初島周りなど、水深250〜450メートル前後をオモリ200〜300号で狙う、いわゆるライト系の深場釣りにピッタリです。

Technology of S

最新シマノテクノロジーの実証
テクノロジー・オブ・エス
vol.65

◎当日鈴木は使い慣れた治具を使って仕掛けを投入したが、ライト系の深場釣りはハリ数10本以内の仕掛けを使い、マグネット板にハリを並べて投入する手軽なスタイルで楽しめる



★相模湾〜三浦半島出船のキンメ・ムツ五目や根魚五目船は城ヶ島〜沖ノ瀬の水深250〜400メートルをメインに狙う

鈴木新太郎の ビーストマスター 9000 使いこなしガイド

●四季折々の釣り物をシマノの最新タックルで狙う月イチ連載。今回のターゲットはキンメダイやクロムツといった深場釣りの人気魚。シマノフィールドテスター鈴木新太郎が大型電動リールの最新モデル「ビーストマスター 9000」の使いこなし術をお届けする。

深場釣りの人気ターゲット、キンメダイやクロムツ(ムツ)は周年狙えるが、乗合船が増えるのはやはり冬。今期の各地の釣況はトップ30尾以上の大釣りもあれば、数尾に終わる日もあるという感じだが、そんなギャップ性があるのも深場釣りのだいご味だ。

鈴木新太郎が深場釣りで使用する大型電動リールの最新モデルが「NEW ビーストマスター 9000」。

この電動リールを使い込んでいる鈴木に最新モデルの特徴と魅力を聞いた。

NEW ビーストマスター 9000 の特徴を教えてください。

このリールの開発テーマはハイパワーとハイスピードの両立です。心臓部のギガマックスモーターの制御を最適化し、現行モデルから10パーセント以上パワーアップしています。

巻き上げスピードも速いですよ。例えばアタリがなく移動になったとき、最速で巻き上げるとほかの電動リールを使っている人よりも仕掛けが早く上がってくるので、次の投入準備に余裕があります。

加えて、リール単体で機能する簡易魚探「NEW 海底・魚群水深表示」や、強度に優れたア



★今冬の沖ノ瀬では30〜40センチ級のキンメダイやクロムツが釣れている

